

(十二) 白田・金指家住宅 かなざしけじゅうたく

県文化財 昭和三年指定

昭和五年解除

白田の金指家は昔から白田に住み、長く続いた家でした。その家はいつ建てられたかわかりませんが、金指家の先祖の金指大炊助おおいのすけがこの地に住み着いたときに建てられたと伝えられています。

場所は白田港から国道に上る細い道の途中にあり、建物の大きさは、間口まぐちが約二十一メートル、奥行きおくゆが約十メートルと、大変大きなものでした。家の造りつくりは特別な飾りなどはありませんが、大きな木材を使い、手斧ちやうなで削った跡がはっきりと残っていました。

この家は、今からおよそ四〇〇年以上前の大きな家の特徴がよく伝えられています。このため、昭和三年（一九二八年）に静岡県文化財に指定されました。しかし、残念ながらこの家は昭和五年（一九三〇年）九月二十四日の火事で焼けてなくなっていました。

かなざしけこけんちくあと
金指家古建築跡

